

自然素材『国産ヒノキ集成材』の住まい

一般的にスギ材や輸入材の集成材を柱材として使用する住宅会社が多い中、国産ヒノキを土台、そして国産ヒノキの集成材を柱として使用しています。
強度はもちろんシロアリや腐れにも強く、耐久性に十分な効果を発揮します。

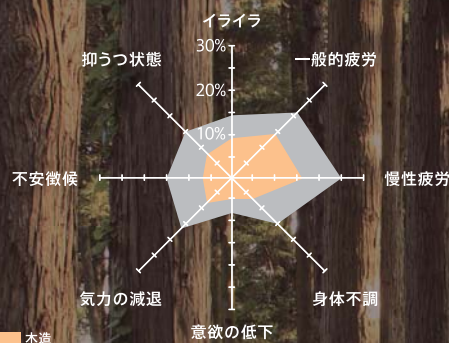
[01] 「ヒノキ」とその特徴

- 檜・桧（ひのき）は、ヒノキ科ヒノキ属
- 福島県東南部以南の本州、四国、九州に分布
- 樹皮はやや赤っぽくスギによく似ている
- うろこ状の葉（鱗状葉）が枝いっぱいにつく
- 球果（まさに球形で1cm程）が10～11月に熟す
- 葉裏のY字型の白い線（気孔線）がある
- 仕上げると美しい光沢と、特有の芳香がある。

● 「木」はストレスが少ない癒し系の素材

「中学校教師の蓄積的疲労特性調査」によると、「木造校舎」と「鉄筋コンクリート造の校舎」を比較した場合、すべての項目で「木造校舎」の方がストレスや疲労が少ないという結果が出ました。地域や環境に依るところも大きいと思われるが、「鉄筋コンクリート造の校舎」でも内装材に「木」を使うことで同じ効果を期待できるなど、木は生活に欠かすことのできない素材といえます。

■ 疲労が少なくも落ち着く木造校舎

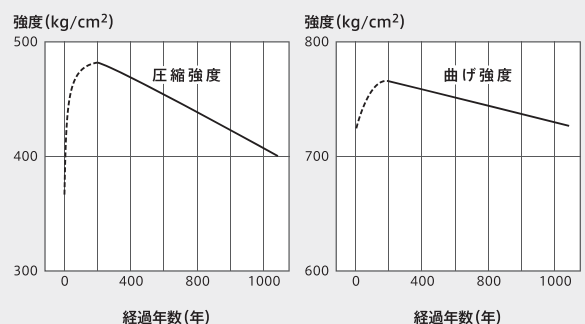


[02] 「ヒノキ」は建築材として世界トップレベル

ヒノキは神社仏閣を建てるための木材として古くから用いられてきました。それはヒノキが伐採されてから200年間は強度が増し、その後1000年かけて徐々に伐採時に戻っていくといわれていることと関係していると考えられています。
実際にヒノキで建てられた法隆寺や薬師寺の塔は1300年以上経っても今も維持されています。「1300年経ってもカンナで削ればいい香りがするし再利用もできる」と言われしました。
ヒノキは建築材として世界最高レベルなのです。

● ヒノキの強度変化

ヒノキは伐採されてから強度が2～3割程度増す。伐採されてから建築材として何百年もの第二の人生が始まる。



[03] 「ヒノキ」の香りにはアロマ効果がある

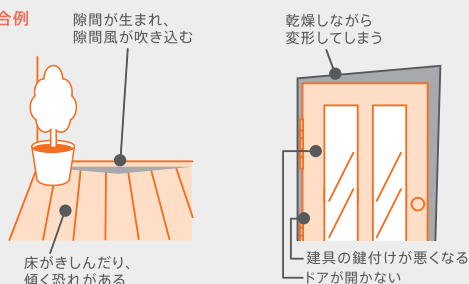
ヒノキ風呂、ヒノキ酒器など、ヒノキの香りは多くの人々に好まれています。香りの成分はアルファピネン、ボルネオールという物質です。この他にも、気分を落ち着かせる効果や殺菌効果などをもつ有用な物質がヒノキには多く含まれていることが報告されています。なお、ヒノキチオールはヒノキ科の樹木から抽出される物質です。

■ 「集成材」は十分な乾燥による品質・精度の高さが魅力

木は自然素材であるため、木材によっては性能に大きなバラつきが生じることがありました。そのバラつきを抑えるために、製造工程で十分な乾燥や大きな節の除去などを行う「集成材」を採用しています。

「集成材」の採用により新築時の性能を長く保つことができます。

■ 一般的な不具合例



[01] 「集成材」はムク材よりも安定した強度を実現

使用する集成材はJAS(日本農林規格)の認定を受けた、強度にバラつきのない「構造用集成材」です。1本の木から切り取ったムク材の強度は、節の入り方や乾燥具合によって大きく性能が左右されるのに比べ、十分な乾燥をさせ欠点部分の除去で安定した性能を確保できます。

[02] 「集成材」は床鳴りや建具の建て付け不良を防止

十分な乾燥が行われていない木材を使用すると、住まいが完成してから乾燥が続くため、ひずみや狂いによる床鳴りや建具の建て付け不良などの不具合が生じる恐れがあります。集成材により、自然素材の木を使うことの住み良さと引き換えに生じた不具合を減らすことができます。